

さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計

平成 27 年 12 月 28 日策定

小浜島

策定主体：小浜島さとうきび増産プロジェクト会議

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】

(1) 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産(策定時)	42	12	15	69	6.9	3.3	3.6	5.5	2,901	378	537	3,816
平成 22 年産 (目標)	50	10	17	77	8.2	5.8	4.8	7.2	4,121	581	808	5,510
(実績)	44	2.8	5.5	52.3	7.4	5.1	4.5	7.0	3,270	144	247	3,661
(達成度 (%))	(88.0)	(28.0)	(32.4)	(67.9)	(90.2)	(87.9)	(93.8)	(97.2)	(79.3)	(24.7)	(30.5)	(66.4)
平成 27 年産 (目標)	50	10	17	77	8.8	6.2	5.1	7.6	4,397	620	862	5,879
平成 26 年産 (実績)	40	4	10	53	6.8	4.6	3.6	6.0	2,686	188	343	3,217
(達成度 (%))	(73.4)	(40.8)	(56.6)	(69.3)	(76.9)	(74.2)	(69.9)	(79.3)	(61.1)	(30.3)	(39.8)	(54.7)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)	1	—	0	0
平成 22 年度 (目標)	6	—	1	0
(実績)	31	—	0	0
(達成度 (%))		—	0	0
平成 27 年度 (目標)	6	—	1	0
平成 26 年度 (実績)	18	—	0	0
(達成度 (%))	(300)	—	0	0

(2) 評価

① 前計画で挙げた課題

- ・ 生産農家の高齢化による労働力不足。
- ・ 水源整備、かんがい施設整備が遅れている。
- ・ 優良品種の普及・導入を推進し、単収の向上を図る。

② 課題に対する取組内容

- ・ 収穫機械化体系及び集中脱葉施設導入の検討。
- ・ 作業受委託組織の育成及び高性能農業機械の導入を検討する。
- ・ 優良品種の計画的な普及・導入を図る。

③ 解決した課題（改善を図った課題）

- ・ 収穫機械の導入（刈倒機1台導入）
- ・ 高性能農業機械の導入（トラクター1台、植付機械等導入）
- ・ 優良種苗安定確保事業により優良品種の普及・導入。

④ 依然として残っている課題

- ・ 適期植付。
- ・ 各農家の単収向上。
- ・ 優良種苗の増産、確保。
- ・ 生産組合の活性化。

⑤ 新たに生じた課題

- ・ 地力低下による単収の低下（緑肥栽培の推進が必要。）
- ・ 気象災害に強い生産基盤の整備（防風施設の整備。）
- ・ 早期の除草。
- ・ 農家の労働力の低下（各農家に適した収穫面積の確保。）
- ・ 機械を円滑に使用できる環境作り。
- ・ 収穫の労働力不足による原料の安定的な搬入体制の構築。
- ・ オペレータ不足による機械の有効利用。

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	40	4	10	53	6.8	4.6	3.6	6.0	2,686	188	343	3,217
平成 28 年産 (目標)	51	2	18	70	6.8	4.6	4.7	6.2	3,427	102	823	4,352
平成 29 年産 (目標)	53	4	18	75	6.8	4.7	4.8	6.2	3,604	179	864	4,647
平成 30 年産 (目標)	54	4	14	72	7.0	4.8	4.9	6.4	3,780	192	686	4,658
平成 31 年産 (目標)	55	4	14	74	7.2	5.0	5.2	6.6	3,960	210	728	4,898
平成 32 年産 (目標)	55	4	15	74	7.2	5.0	5.0	6.6	3,960	210	750	4,920
平成 37 年産 (目標)	55	4	15	74	7.2	5.0	5.0	6.6	3,960	210	750	4,920

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	18	—	0	0
平成 32 年度 (目標)	23	—	1	0
平成 37 年度 (目標)	28	—	1	0

※認定農業者は竹富町全体

(3) 目標達成に向けた取組方向

収穫作業を手刈りと刈倒機で行っているが、十分な規模拡大はされていない。Uターンにて就農する人もいるが依然として生産農家の高齢化が進んでいることから、生産組合、製糖工場と一体となって収穫機械化体系を検討する。また、農作業の受委託を担えるよう組織や中核的担い手である認定農業者を育成する。

1. 目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																								
<p>①農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産農家の高齢化による労働力不足。 受委託作業の組織化が必要。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場での優良種苗作り。 植付作業員の確保。 <p><担い手の育成状況></p> <table border="1" data-bbox="488 687 965 823"> <tr> <td>認定農業者数(経営体)</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>生産法人数(法人)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>法人構成員数(人・面積)</td> <td>3 (8.2ha)</td> </tr> <tr> <td>耕作放棄地(ha)</td> <td>34.5ha</td> </tr> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製糖工場による優良種苗づくりのためのほ場の確保が難しい。 作業人員の確保が難しい。 手刈り収穫が主体であるため、労働限界から規模拡大が難しい。 	認定農業者数(経営体)	18	生産法人数(法人)	1	法人構成員数(人・面積)	3 (8.2ha)	耕作放棄地(ha)	34.5ha	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊休農地の活用による栽培面積の拡大、生産量の増加を図る。 作業の機械化に向け、オペレータの育成を図る。 <p>【目標】</p> <p><担い手育成目標></p> <table border="1" data-bbox="1144 576 1599 711"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H32</th> <th>H37</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>生産法人</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>受託組織</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※認定農業者数は竹富町全体</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 期間作業員の確保のため、町、関係機関と連携した募集を行う。 高齢化農家の農作業受委託を担えるよう組織化や中核的担い手である認定農業者を育成する。 		H28	H32	H37	認定農業者	19	23	28	生産法人	1	1	1	受託組織	0	1	1	
認定農業者数(経営体)	18																										
生産法人数(法人)	1																										
法人構成員数(人・面積)	3 (8.2ha)																										
耕作放棄地(ha)	34.5ha																										
	H28	H32	H37																								
認定農業者	19	23	28																								
生産法人	1	1	1																								
受託組織	0	1	1																								
<p>②農業共済制度への加入促進</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢農家、零細農家の中に共済加入への意識が低い農家が多い。 農家が被害査定への理解不足のため、被害を受けても補償されないという不満がある。 無事故の場合、共済掛金が掛け捨てになるため、加入への意識が低い。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農者に対して説明会を開き、共済制度の加入に努める。 共済未加入農家に対して、栽培講習会等の機会を通じて共済制度の説明会の開催、個別相談等を通じて周知を推進し、加入率向上を図る。 																									

<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共済加入説明会実施。 <p>< H26 農業共済加入状況 ></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>共済加入戸数 (率)</td> <td>21 戸 (39.6%)</td> </tr> <tr> <td>引き受け面積 (率)</td> <td>33.1ha (60.5%)</td> </tr> <tr> <td>支払金額</td> <td>1,631 千円</td> </tr> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規加入が難しい。 ・ 共済制度への理解不足。 	共済加入戸数 (率)	21 戸 (39.6%)	引き受け面積 (率)	33.1ha (60.5%)	支払金額	1,631 千円	<p>【目標】</p> <p>< 農業共済加入目標 ></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>項目</th> <th>28年</th> <th>29年</th> <th>30年</th> <th>31年</th> <th>32年</th> </tr> <tr> <td>戸数 (戸)</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>面積 (ha)</td> <td>41.88</td> <td>40.22</td> <td>46.22</td> <td>46.22</td> <td>46.22</td> </tr> <tr> <td>面積加入率 (%)</td> <td>74.5</td> <td>77.3</td> <td>88.9</td> <td>88.9</td> <td>88.9</td> </tr> </table> <p>有資格者：26/27 年期さとうきび生産実績に基づく有資格戸数・面積 戸数：53 戸、面積：54.7ha</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共済制度を理解に向け説明会等を開催する。 ・ 沖縄型農業共済加入促進支援事業を活用し、加入推進に取り組んでいく。 	項目	28年	29年	30年	31年	32年	戸数 (戸)	26	28	36	36	36	面積 (ha)	41.88	40.22	46.22	46.22	46.22	面積加入率 (%)	74.5	77.3	88.9	88.9	88.9
共済加入戸数 (率)	21 戸 (39.6%)																														
引き受け面積 (率)	33.1ha (60.5%)																														
支払金額	1,631 千円																														
項目	28年	29年	30年	31年	32年																										
戸数 (戸)	26	28	36	36	36																										
面積 (ha)	41.88	40.22	46.22	46.22	46.22																										
面積加入率 (%)	74.5	77.3	88.9	88.9	88.9																										

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																																																
①作型の選択	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春植・株出への作型の移行は、気象条件によって、単収が安定しない。 <p>【現状】</p> <p>< 作型割合及び単収の推移 ></p> <p style="text-align: center;">単位：%、kg/10a</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> <th>単収</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H18</td><td>84.2</td><td>7.0</td><td>8.8</td><td>5,775</td></tr> <tr><td>H19</td><td>83.5</td><td>4.1</td><td>12.4</td><td>6,195</td></tr> <tr><td>H20</td><td>84.1</td><td>4.2</td><td>11.7</td><td>4,139</td></tr> <tr><td>H21</td><td>75.9</td><td>14.9</td><td>9.2</td><td>8,119</td></tr> <tr><td>H22</td><td>84.1</td><td>5.4</td><td>10.5</td><td>7,001</td></tr> <tr><td>H23</td><td>56.1</td><td>13.6</td><td>30.3</td><td>4,102</td></tr> <tr><td>H24</td><td>65.4</td><td>16.6</td><td>18.0</td><td>4,273</td></tr> <tr><td>H25</td><td>68.5</td><td>3.7</td><td>27.8</td><td>4,502</td></tr> <tr><td>H26</td><td>74.3</td><td>7.6</td><td>18.0</td><td>6,026</td></tr> </tbody> </table>	年度	夏植	春植	株出	単収	H18	84.2	7.0	8.8	5,775	H19	83.5	4.1	12.4	6,195	H20	84.1	4.2	11.7	4,139	H21	75.9	14.9	9.2	8,119	H22	84.1	5.4	10.5	7,001	H23	56.1	13.6	30.3	4,102	H24	65.4	16.6	18.0	4,273	H25	68.5	3.7	27.8	4,502	H26	74.3	7.6	18.0	6,026	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫作業の機械化を推進し、作業時期の早期化や適期植付、肥培管理作業を推進する。 ・ 株出管理作業の講習会等の開催による単収の向上。 ・ 一定程度株出を推進しつつ、夏植割合の維持。 <p>【目標】</p> <p>< 作型割合及び単収の目標 ></p> <p style="text-align: center;">単位：%、kg/10a</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> <th>単収</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>74.9</td><td>7.6</td><td>17.5</td><td>6,213</td></tr> <tr><td>H29</td><td>74.3</td><td>7.7</td><td>18.0</td><td>6,387</td></tr> <tr><td>H30</td><td>74.3</td><td>7.7</td><td>18.0</td><td>6,614</td></tr> <tr><td>H31</td><td>74.2</td><td>7.8</td><td>18.0</td><td>6,815</td></tr> <tr><td>H32</td><td>74.2</td><td>7.8</td><td>18.0</td><td>7,234</td></tr> </tbody> </table>	年度	夏植	春植	株出	単収	H28	74.9	7.6	17.5	6,213	H29	74.3	7.7	18.0	6,387	H30	74.3	7.7	18.0	6,614	H31	74.2	7.8	18.0	6,815	H32	74.2	7.8	18.0	7,234	
年度	夏植	春植	株出	単収																																																																															
H18	84.2	7.0	8.8	5,775																																																																															
H19	83.5	4.1	12.4	6,195																																																																															
H20	84.1	4.2	11.7	4,139																																																																															
H21	75.9	14.9	9.2	8,119																																																																															
H22	84.1	5.4	10.5	7,001																																																																															
H23	56.1	13.6	30.3	4,102																																																																															
H24	65.4	16.6	18.0	4,273																																																																															
H25	68.5	3.7	27.8	4,502																																																																															
H26	74.3	7.6	18.0	6,026																																																																															
年度	夏植	春植	株出	単収																																																																															
H28	74.9	7.6	17.5	6,213																																																																															
H29	74.3	7.7	18.0	6,387																																																																															
H30	74.3	7.7	18.0	6,614																																																																															
H31	74.2	7.8	18.0	6,815																																																																															
H32	74.2	7.8	18.0	7,234																																																																															

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各作型とも、植付時期や株出管理が遅い。 ・既存の夏植面積の確保。 	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械化を進め、適期植付や肥培管理を推進する。 	
② 気象災害に強い生産基盤の整備	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場整備の進捗の一方で、水源整備やかんがい施設の整備が遅れている。 ・干ばつを受けやすい地形を考慮し、水源整備や末端のかんがい施設の整備が急務である。 <p>【現状】</p> <p><農業基盤整備の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源整備率： 0% ・ほ場整備： 83.9% ・畑地灌漑整備率： 0% <p>※H25年度整備実績値</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川はあるが、かんがい施設の整備が遅れており、安定的な生産が難しい。 ・台風被害を受けやすいほ場については防風・防潮林の整備が必要である。 ・2～3トンタンクはあるが、運搬用トラックが無く十分に機能していない。 	<p>【取組方向及】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①防風施設は整備されつつあるが、引き続き整備を推進する。 ②農業生産基盤の整備。 ③干ばつ時に関係機関と連携してかん水を行えるよう体制づくりを図る。 <p>【目標】</p> <p><農業基盤整備の目標（H33年度）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源整備率： 0% ・ほ場整備： 90% ・畑地灌漑整備率： 0% <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かん水のためのトラックの導入の検討。 ・町、製糖工場、JAと連携したかん水作業の受託等干ばつ対策の実施 	
① 機械化一貫体系の確立	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・含みつ糖工場のため、トラッシュによる品質低下が懸念されることから、ハーベスタの導入が困難 ・H23年度に刈倒機1台を導入し、収穫の機械化を図っている。 	<p>【取組方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進んでいることから、原料を安定的に確保するため機械化の推進を図る。 ・工場側と一体となって収穫機械化体系を検討する。 ①刈倒機を円滑に使用し収穫体系の労働の軽減を図る。 ②優良種苗を増産し、植付機での欠株率の低減を図る。 	

【現状】

<農業機械等の稼働状況>

	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	—	—
株出管理機	—	—
プランタ	1	43.6%
刈倒機	1	13.8%

【課題】

- ① 植付の機械化を図ったが、苗の質が悪く、発芽不良が多い。
- ② 刈倒機を中心とした収穫体系の構築が必要。
- ③ 収穫労働の更なる軽減化を図るため、ハーベスタによる収穫体系の構築が必要。

【目標】

<農業機械等の稼働目標>

① ハーベスタ

項目	H28	H29	H30	H31	H32
稼働台数(台)	1	1	2	2	2
稼働率(%)	30	35	40	40	40

② 刈倒機

項目	H28	H29	H30	H31	H32
稼働台数(台)	1	1	2	2	2
稼働率(%)	30	30	40	40	40

③ 株出管理機

項目	H28	H29	H30	H31	H32
稼働台数(台)	1	1	1	1	1
稼働率(%)	30	35	40	40	40

④ プランタ

項目	H28	H29	H30	H31	H32
稼働台数(台)	1	2	2	2	2
稼働率(%)	45	45	50	60	70

【計画】

- ・ 収穫体系に即した収穫機械の導入の検討。
- ・ ハーベスタオペレータ講習会等、各種講習会・研修の開催。
- ・ 機械化一貫体系の推進と平行して農作業安全に関する講習会等で周知活動を行う。

④ 地力の増進

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ① 堆肥センターが未整備のため、土づくりが不十分。
- ② 耕畜連携による土づくりが必要である。

【現状】

- ・ 主に農家個々で緑肥栽培による土づくりを実施している。

【取組方向】

- ・ 土壌分析を積極的に実施し、分析結果に基づく土壌改良資材の投入等による地力の増進を図る。
- ・ 関係機関とともに緑肥作物栽培の推進し、土づくりを図る。
- ・ 株出を推進し赤土の流出を防ぐ。

【目標】

- ・ 関係機関と連携し、堆肥の輸送コストなどの問題点を解決し、施用面積の拡大を図る。

	<p>【課題】</p> <p>①堆肥センターが未整備の為、土づくりが不十分。 ②耕畜連携による土づくりが必要である。 ・緑肥作物栽培に関して、関係機関との体制づくり等が不十分である。</p>	<p>【計画】</p> <p>・畜産農家との連携による堆肥づくり、堆肥の投入を図る。 ・土壌分析の実施 ・緑肥栽培の推進とすき込みによる土づくり</p>	
--	--	---	--

(3) 技術対策

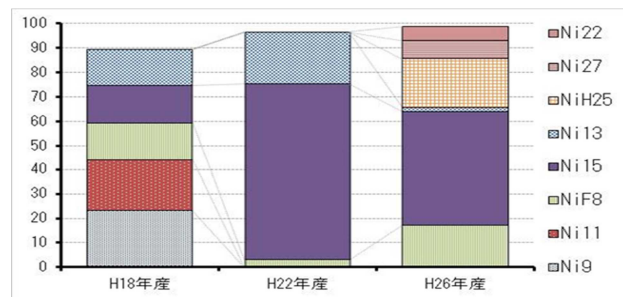
項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																
①栽培技術の普及等	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械化の遅れから管理作業が手作業となり、春植や株出管理作業が遅れる傾向にある。 ・春植・株出の適期肥培管理時期が収穫期と重なる。 <p>【現状】 < 適期肥培管理実施状況 ></p> <table border="1" data-bbox="468 858 846 994"> <thead> <tr> <th>栽培型</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適期の植付、肥培管理が不十分で、単収が低迷している。 ・植付、収穫時の作業人員の確保が困難。 	栽培型	達成率	夏植	50%	春植	30%	株出	40%	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会などの勉強会を通して基本的な栽培技術の普及を図っていく。 ・機械化一貫体系の確立。 ・オペレータの育成。 ・受委託作業の組織化。 <p>【目標】 < 5年後適期肥培管理実施目標 ></p> <table border="1" data-bbox="1144 858 1523 994"> <thead> <tr> <th>栽培型</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、新規就農者を始め、他地区へのほ場視察、研修会を開催。 ・援農隊へ協力願ひ。 ・畑地かんがい、水源整備、点滴かんがいの普及を図る。 	栽培型	達成率	夏植	80%	春植	80%	株出	80%	
栽培型	達成率																		
夏植	50%																		
春植	30%																		
株出	40%																		
栽培型	達成率																		
夏植	80%																		
春植	80%																		
株出	80%																		
②優良品種の選択・普及	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風や干ばつに対する抵抗性品種、耐病性品種の導入を図る。 ・高糖多収性で黒糖向けの品種を導入していく。 	<p>【取組方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質、収量と共に黒糖向けにも優良な品種の普及を図る。 ・台風や干ばつ抵抗性品種、耐病性品種の導入を図る。 ・品種特性、営農体系に応じた肥培管理を構築する。 																	

【現状】

①品種別作付面積

栽培比率(%)

	Ni9	Ni11	NiF8	Ni15	Ni13	NiH25	Ni27	Ni22
H18	23.0	20.9	15.3	15.3	14.9			
H22			3.0	72.2	21.1			
H26	0.3		16.9	46.8	1.6	20.0	7.5	5.7



【課題】

- ・ 原苗種、採苗ほ場の設置による新植苗の確保が必要。
- ・ 収穫体系、営農体系に沿った品種の選定、普及が必要。
- ・ 含蜜糖向け品種の選定、導入が必要。

【取組目標】

- ① 遊休農地の活用による原苗圃場の設置
- ② 採苗圃場を設置し、優良品種の普及

【計画】

- ① 品種構成について
 - ・ NiF8、NiH25、Ni27 を中心として、手刈り収穫を考慮しつつ、高糖多収性で黒糖向きの品種導入による品種構成を図る。
- ② 原苗ほ等の設置。
- ③ 実証ほ等の設置。

③病害虫対策

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・ 島内では一斉防除が有効であり、地域をあげての取り組みが必要

【取組方向】

- ・ 継続して、各種病害虫防除対策を実施するとともに、病害虫の発生状況調査に基づき、数値的に確認し、生産者に対し初期の病害虫防除対策の徹底を図る。
- ・ フェロモントラップを設置し、発生密度に応じた適期防除を実施する。

【現状】

①病害虫被害の状況

メイチュウ等病害虫の発生はある程度見られるが、被害はそれほど甚大ではない。

②病害虫対策の実施状況

生産者個々が病害虫防除に取り組んでいる。

【課題】

- ・病害虫防除は生産農家個々で行われているが、さらに効果を上げるため、一斉防除等の病害虫防除対策が必要である。
- ・薬剤散布方法の指導が不十分である。

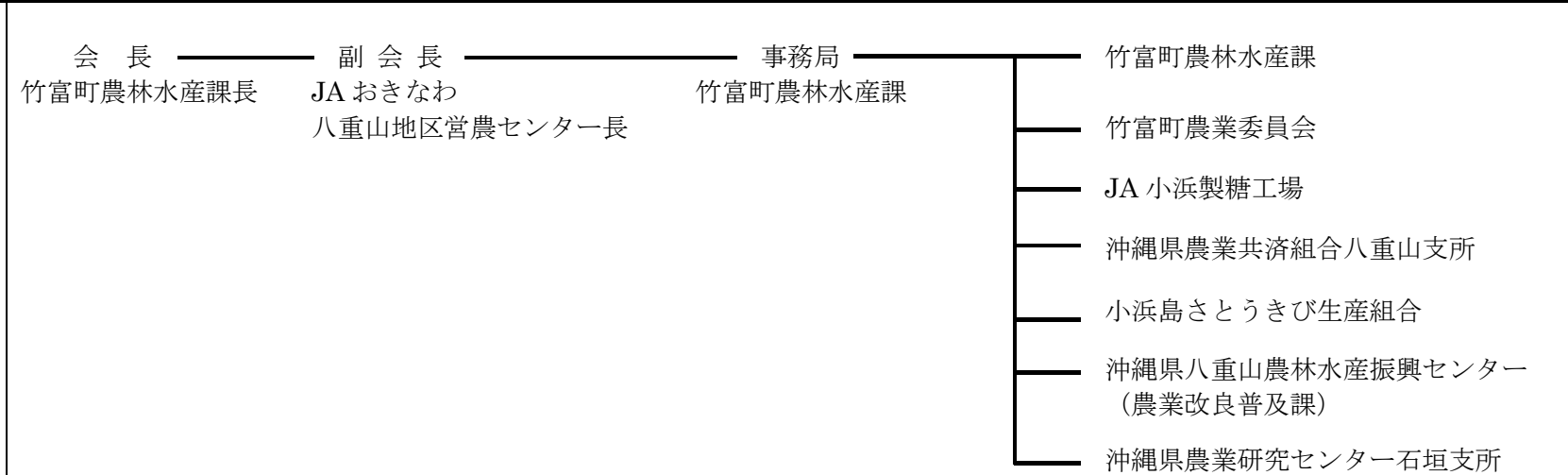
【取組目標】

- ・病害虫の被害が出てからの対策では遅いので、被害が出る前に早期に防除をすることができる体制づくりの構築。
- ・病害虫被害の低減。

【計画】

- ・病害虫防除を効果的に実施するための体制の整備。
- ・共同防除、一斉防除の周知。
- ・薬剤散布方法の講習会の開催、展示ほの設置。

2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について

<p>①さとうきび増産に向けた取組推進体制</p>																											
<p>②関係者の役割分担</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">参画機関</th> <th rowspan="2">担うべき役割</th> <th colspan="3">具体的取組方策</th> </tr> <tr> <th>経営基盤の強化</th> <th>生産基盤の強化</th> <th>技術対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>竹富町</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクト会議の事務全般 ② 国、県事業導入及び予算等の事項 ③ 国、県との調整 ④ さとうきび増産体制に関する事項 ⑤ その他増産に関する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 受託組織の推進 ② 共済加入の速成 ③ 認定農業者の認定 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 精脱施設の検討 ⑤ 暴風/坊塩林の整備 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>農業委員会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 農地の流動化等に関する事項 ② 農家への啓 </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>JA おきなわ 八重山地区営 農センター</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 生産性向上の推進に関する事項 ② 滋養導入に関する事項 ③ 農家への技術指導に関する事項 ④ 農家への普及啓発活動 ⑤ 農家への技術 ⑥ 生産組織、受託組織に関する事項 ⑦ 生産資材に関する事項 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 生産組織の推進 ② 受託組織の推進 ③ 共済加入の促進 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 機械等の事業計画 ② 生産資材の提供 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 栽培講習会の開催 ② 肥培管理ごよみ作成 ③ 展示ほ調査協力 ④ 病虫害防除の推進 </td> </tr> </tbody> </table>				参画機関	担うべき役割	具体的取組方策			経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策	竹富町	<ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクト会議の事務全般 ② 国、県事業導入及び予算等の事項 ③ 国、県との調整 ④ さとうきび増産体制に関する事項 ⑤ その他増産に関する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 受託組織の推進 ② 共済加入の速成 ③ 認定農業者の認定 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 精脱施設の検討 ⑤ 暴風/坊塩林の整備 		農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 農地の流動化等に関する事項 ② 農家への啓 				JA おきなわ 八重山地区営 農センター	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産性向上の推進に関する事項 ② 滋養導入に関する事項 ③ 農家への技術指導に関する事項 ④ 農家への普及啓発活動 ⑤ 農家への技術 ⑥ 生産組織、受託組織に関する事項 ⑦ 生産資材に関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産組織の推進 ② 受託組織の推進 ③ 共済加入の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 機械等の事業計画 ② 生産資材の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ① 栽培講習会の開催 ② 肥培管理ごよみ作成 ③ 展示ほ調査協力 ④ 病虫害防除の推進
参画機関	担うべき役割	具体的取組方策																									
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策																							
竹富町	<ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクト会議の事務全般 ② 国、県事業導入及び予算等の事項 ③ 国、県との調整 ④ さとうきび増産体制に関する事項 ⑤ その他増産に関する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 受託組織の推進 ② 共済加入の速成 ③ 認定農業者の認定 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 精脱施設の検討 ⑤ 暴風/坊塩林の整備 																								
農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 農地の流動化等に関する事項 ② 農家への啓 																										
JA おきなわ 八重山地区営 農センター	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産性向上の推進に関する事項 ② 滋養導入に関する事項 ③ 農家への技術指導に関する事項 ④ 農家への普及啓発活動 ⑤ 農家への技術 ⑥ 生産組織、受託組織に関する事項 ⑦ 生産資材に関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産組織の推進 ② 受託組織の推進 ③ 共済加入の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 機械等の事業計画 ② 生産資材の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ① 栽培講習会の開催 ② 肥培管理ごよみ作成 ③ 展示ほ調査協力 ④ 病虫害防除の推進 																							

	JA 小浜製糖工場	① 実証展示ほ等への協力 ② 品種導入等の技術に関する事項 ③ 堆肥、バガス等の供給等 ④ その他資材等の提供	① 受託組織等への協力 ② 共済加入の協力	① 車両、機械等の提供 ② バガスの供給等	① 実証ほの設置 ② 新品種の普及拡大 ③ ③病害虫防除の推進
	生産農家	① 技術講習会等の開催等への協力 ② 生産技術向上等への協力 ③ 実証展示ほ設置等への協力	① 生産組織への加入 ② 共済への加入	① 増産体制への協力	① 実展示ほ設置等への協力
	沖縄県 (八重山農業改良普及課・農研センター石垣支所)	① 生産技術に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 生産性に関する事項全般 ④ 県行政との調整に関する事項 ⑤ その他生産組織に関する事項 ⑥ 受託組織の指導 ⑦ 農家経営等の調査	① 受託組織の指導 ② 農家経営等の調査 ③ 共済加入促進指導	① 事業導入への協力 ② 事業効果の検証指導	① 展示ほの設置、指導 ② 品種構成の指導 ③ 技術講習・実演会 ④ 土壌調査 ⑤ 栽培指針の策定 ⑥ その他
	沖縄県農業共済組合 (八重山支所)	① 共済加入率の促進に関する事項 ② 病害虫被害耕地への対応 PR	① 加入促進説明会		
③毎年度の検証方法・体制	竹富町さとうきび産地システム化推進会議、共済推進協議会、農業経営改善計画認定審査会等にて検証を行う。				

(参考情報)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

【島の概況】

- ・ 八重山群島の中央に位置する。島の周囲は 16.6 km、面積は 7.84k m²、人口は 565 人である。
- ・ さとうきびを中心とする農業が島の主な産業である。
- ・ 近年、本土資本によるリゾートやゴルフ場が進出し、観光産業が盛んになりつつある。

《竹富町全体のデータ》

産業別就業構造は第1次産業 9%、第2次産業 25%、第3次産業 66%であり、農業産出額は 227 千万円 (H18) で肉用牛 (149 千万円)、さとうきび (46 千万円)、パイン・マンゴー (16 千万円) が主な農産物となっている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状

【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】

(1) 作物別作付面積の動向

(単位: ha)

	耕地面積	作付面積	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	果樹	飼料作物	その他
H17	11,706	190.3	114.5	—	—	—	—	75.8	—
H18	11,706	180.0	104.2	—	—	—	—	75.8	—
H19	11,706	182.1	106.3	—	—	—	—	75.8	—
H20	11,706	195.3	116.0	—	—	—	—	79.3	—
H21	11,706	173.6	95.9	—	—	—	—	77.7	—
H22	11,706	161.4	82.3	—	—	—	—	79.1	—
H23	11,706	177.2	93.2	—	—	—	—	84.0	—
H24	11,706	197.7	114.7	—	—	—	—	84.0	—
H25	11,706	191.1	108.3	—	—	—	—	83.7	—
H26	11,706	192.6	113.4	—	—	—	—	79.2	—

※H19年以後、品目によっては市町村統計が公表されていないため数値が把握されていない。

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t / ha)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	48	4	13	65	63.100	27.750	20.770	52.460	3,029	111	270	3,410	13.80
H18	48	4	5	57	62.688	35.250	28.400	57.754	3,009	141	142	3,292	15.50
H19	47	2	7	56	67.176	49.618	31.018	61.963	3,157	114	217	3,489	13.10
H20	41	2	6	49	42.935	34.187	32.839	41.388	1,773	70	189	2,032	15.70
H21	39	8	5	52	90.084	56.628	48.009	81.237	3,548	438	229	4,214	15.50
H22	44	3	6	52	74.328	51.383	44.903	70.005	3,270	144	247	3,661	14.40
H23	21	5	12	38	44.699	33.592	37.541	41.017	958	175	435	1,568	15.30
H24	39	10	11	60	52.077	27.456	22.836	42.726	2,033	273	245	2,551	15.20
H25	37	2	15	54	55.060	21.410	22.910	45.020	2,063	45	338	2,446	14.80
H26	40	4	10	53	67.680	46.031	35.673	60.259	2,686	188	343	3,217	15.00

【年齢階層別農家戸数】

(単位：人)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H19	4	6	8	21	30	69
H20	3	4	10	18	42	77
H21	—	3	8	7	25	43
H22	—	1	6	12	27	46
H23	—	1	4	3	17	25
H24	2	5	6	10	41	64
H25	2	4	5	12	32	55
H26	1	4	5	8	36	54

【経営（収穫）規模別農家戸数】

(単位：戸)

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H20	41	13	—	2	56
H21	41	12	1	1	55
H22	36	6	2	2	46
H23	30	11	1	—	42
H24	43	11	1	3	58
H25	40	9	6	1	56
H26	43	10	3	1	57

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	68.20	70	12.66	0.87
H18	65.84	76	14.69	0.87
H19	69.78	65	12.67	0.88
H20	40.64	58	14.89	0.89
H21	84.28	85	14.09	0.89
H22	73.22	70	12.76	2.27
H23	31.36	41	14.03	0.87
H24	51.02	61	14.34	0.87
H25	48.92	62	14.16	0.87
H26	64.34	66	13.76	0.88